

エピソード79

保護者に「先生は何も思わなかった
のですか？」と言われました

このエピソードでは、教職経験7年目、20代女性の先生の経験を紹介します。



ジュリさん
教師を目指して勉強中



先生は、初めて1年生の担任をされたことをお話しくださるんですね。

はい、比較的落ち着いた学級で、1年生ってかわいいなと思いつつ毎日をお過ごしていました。

そんなある日、休み時間に凜太郎くんが「自殺の絵」と言いつつ、ビルから飛び降りる人の絵を描いて、みんなに見せていました。周りの子は「え〜」と言いつつ驚いていましたが、凜太郎くん本人は笑いながら「ほら、ほら」と見せていて、私にはみんなの反応を楽しんでいるように見えました。

普段の凜太郎くんはおとなしくて言葉数も少なく、どちらかというと暗い印象の子どもでした。私は、凜太郎くんが周りの子たちがいろいろな反応を見せてくれることを面白がっているのだろう、めずらしいな、と思っただけで特に問題を感じることもありませんでした。保護者にも連絡はしませんでした。



その日の放課後、凜太郎くんのお母さんから電話をもらいました。お母さんはとても怒っていて、「凜太郎が自殺の絵を描いたそうですが、先生はそのことについて何も思わなかったのですか。どうして連絡をくれなかったのですか。知り合いにこの話をしたら、凜太郎のことが心配だ、よく話を聞いた方がいいと言われたんですよ。先生は凜太郎から話を聞いてくれましたか。」とすごい剣幕でした。私はそのときの凜太郎くんや周りの子の様子をお伝えし、最近の凜太郎くんにも心配な様子が見られなかったので特に話を聞くことはしませんでしたと謝罪しました。分かっていただけなのかわかりませんが、お母さんは私が謝ったのを聞いて「わかりました」と収めてくださいました。

凜太郎くんのお母さんは社会福祉士さんで、凜太郎くんと同じように静かな方でした。保護者会でも意見を言うこともなく、何を考えているのかわからなくて、私はちょっと苦手意識を持っていました。その時も、凜太郎くんは友だちのウケを狙って描いたのだらうと思い、お母さんの大袈裟に思える反応を悔しい気持ちで受け止めていました。



その後、学年の先生たちにその話を聞いてもらおうと、「大袈裟だね」と私を慰めてくれる先生もいましたが、年配の先生が「親だったらやっぱり心配になるよ。ウケで描いたとしても、どうしてそんな絵を描いてまでウケようとしたのか、凧太郎くんの気持ちを考えて話を聞いてあげることが必要だったんじゃないかな。そして何でもないと思うことでも話を聞いて、保護者に連絡したら安心したと思うよ。先生はうちの子をちゃんと見ていてくれるってね」と話していただきました。

結局、凜太郎くんがどうしてそんな絵を描いたのかわからなかったのですが、あの時もっときちんと話を聞いていればよかったと今でも思っています。



ジュリさんの気づき



先輩の先生が、「何でもないと思うことでも話を聞いて、保護者に連絡したら安心したと思うよ。先生はうちの子をちゃんと見ていてくれるってね」といったことを、私も忘れないでいたいと思います。

お・し・ま・い

若い先生の保護者支援



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。>

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)